

**製品名: BCL-10 (リン酸化 Ser138) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab05664**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	26kDa

**抗原情報**

遺伝子名	BCL10 B-cell lymphoma/leukemia 10 (B-cell CLL/lymphoma 10) (Bcl-10) (CARD-containing molecule enhancing NF-kappa-B) (CARD-like apoptotic protein) (hCLAP) (CED-3/ICH-1 prodomain homologous E10-like regulator) (CIPER) (Cellular homolog of vCARMEN) (cCARMEN) (Cellular-E10) (c-E10) (Mammalian CARD-containing adapter molecule E10) (mE10)
別名	
遺伝子 ID	8915.0
SwissProt ID	O95999
免疫原	ヒト BCL-10 由来の合成ペプチド (リン酸化 Ser138)

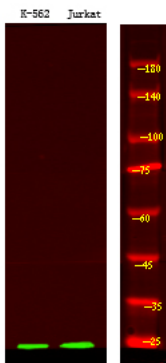
## 背景

疾患: BCL10に関連する染色体異常は、低悪性度粘膜関連リンパ組織 (MALT リンパ腫) で再発性です。転座は t(1;14)(p22;q32) です。BCL10/IgH 転座は BCL10 のコード領域をそのまま残しますが、頻繁な BCL10 変異は、ヌクレオチド転移を引き起こす Ig 体細胞超変異機構に起因する可能性があります。疾患: BCL10 の欠陥は、さまざまな種類の癌に関与しています。機能: NIK および IKK を介して、アポトーシス、プロカスペーゼ 9 の成熟、および NF- $\kappa$ B の活性化を促進します。上流の TNFR1-TRADD-RIP 複合体と下流の NIK-IKK-IKAP 複合体間のアダプタータンパク質である可能性があります。MALT1 の基質です。PTM: リン酸化されています。リン酸化により TRAF2 から解離し、BIRC2/c-IAP2 に結合する。類似性: CARD ドメインを 1 つ含む。細胞内局在: 核周縁性、コンパクトかつフィラメント状の発現パターンを示す。いくつかの種類腫瘍細胞の核にも存在する。サブユニット: CARD-CARD 相互作用によって自己会合し、MALT1 と強固な複合体を形成する。CARD9、CARD10、CARD11、CARD14 などの他の CARD タンパク質と相互作用する。C 末端ドメインでカスペーゼ 9 に結合する。TRAF2 および BIRC2/c-IAP2 と相互作用する。組織特異性: 普遍的。

## 研究分野

細胞生物学

## 画像データ



K-562 Jurkat のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈で 4°C、一晩。二次抗体は 1:10000 希釈で 25°C、1.5 時間。